

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|---------------------|
| A-133 | 13-046 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Childhood alcohol use may predict adolescent binge drinking: a multivariate analysis among adolescents in Brazil. 幼少期の飲酒開始は青年期の大量飲酒と関連する：ブラジル人青年における多変量解析 | | |
| 執筆者 | | |
| Sanchez ZM, Santos MG, Pereira AP, Nappo SA, Carlini EA, Carlini CM, Martins SS. | | |
| 掲載誌 | | |
| J Pediatr. 2013 Aug;163(2):363-8. doi: 10.1016/j.jpeds.2013.01.029. Epub 2013 Feb 20. | | |
| キーワード | | PMID |
| 幼年期、飲酒, 大量飲酒, 親の飲酒パターン, 飲酒に対する親の役割 | | 23434122 |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： 最初の飲酒が幼少期である事は、青年期の大量飲酒および親の飲酒パターンや飲酒に対する親の役割と関連するという仮説を確かめる。</p> <p>方法： ブラジル高校生 17,371 人に対する横断調査。学生は各州都にある公立私立 789 高校から多段抽出方式と自記式質問票より選出した。データは最初の飲酒が幼少期である事に対する関連要因の差異を調べる為に、ロジスティック回帰分析を用いて分析した。生存率分析とコックスの比例ハザード・モデルは結果を確かめるために用いた。</p> <p>結果： これまでに飲酒経験があると答えた 81.7%の高校生の内、10.9%は 12 歳以前に飲酒を開始していた。若年者の飲酒が刑罰の対象になることについて親の関心が薄いことはオッズ比 2.22(95%信頼区間 1.67-2.95)で若年での飲酒と関連があった。青年期に飲酒を開始した者は、それ以降に飲酒を開始した者と比べると、酒の暴飲に関してはオッズ比 1.57(95%信頼区間 1.17-2.10)、酒の過飲に関してはオッズ比 1.98(95%信頼区間 1.26-3.09)、不法薬物の使用に関してはオッズ比 1.74(95%信頼区間 1.39-2.16)と関連を認めた。また過去にたばこや不法薬物を使用していた者は早期に飲酒を開始しやすいことがハザード比からわかった。</p> <p>結論： 幼少期の飲酒は青年期の危険な飲酒行動に対する最も危険な要因であり、親の飲酒行動と関連している。若年者の飲酒が罪であるという意識は飲酒開始時期を遅らせるので、子供の飲酒に対する親の役割は明らかである。</p> | | |